

瀬戸町のまちづくりスタート! 瀬戸町活性化推進協議会設立



▲瀬戸町活性化推進協議会(役場会議室)

しかし町村合併時一万人に及んでいた人口は、昭和六十年には三、七二七人と約三分の一に減少し、全国でも有数の過疎の町となっています。過疎化、高齢化が進行する中、若年層の定住を促進し、活力ある町づくりを推進するために魅力ある産業をおこし、本町にとって最も急務な課題とされています。



会長
(瀬戸町長)

阿部 茂 久

本町は昭和三十一年六月一日町制施行され新生瀬戸町が誕生し、三十周年を迎えます。この間思われた自然と先人のためをなす努力によって、瀬戸町に恵まれた漁業の町として今日に至っています。

観光開発ビジョン 特産品の開発めざす 瀬戸町活性化推進協議会の 設立にあたって

本町にとってこの歴史的な節目である昭和六十一年度を二十一世紀へ向けて活力ある町づくりのスタートの年として位置づけ、今こそ全町民が一丸となって二十一世紀へ向けて町の活性化の道を真剣に模索しながら、その事を実践し、明るい活力ある瀬戸町を築きあげていかなければなりません。

間もなく完成する国道バイパス、南予用水事業と将来を変革する展望をもてる状況が整いつつあります。今こそ、これらの条件を生かしてどう活性化をめざすか住民の英知を結集して取り組むたいと本協議会を設立いたしました。これを契機にそれぞれの団体、それぞれの立場の方々が一致協力して、ふるさとを再興に向けて取り組んでゆこうではありませんか。

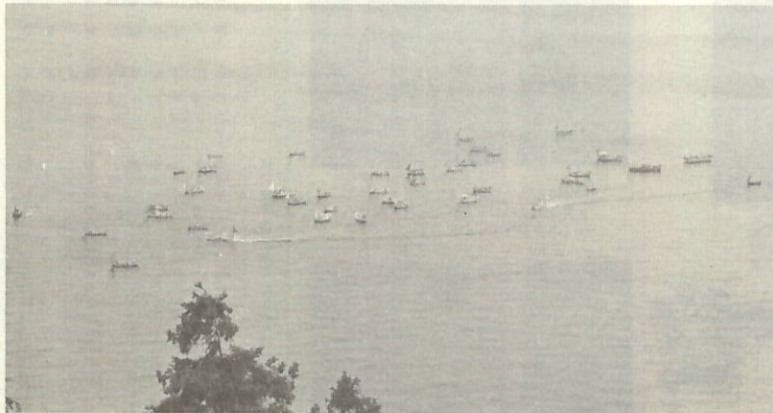
第1回 瀬戸町活性化推進協議会開催

瀬戸町経済の活性化と住み良い地域づくりをめざした活性化推進協議会の初会合が、五月十六日、役場三階大会議室で開催されました。この協議会の委員は二十三名からなり、構成は農協、漁協、商工会、瀬戸町のほか農漁工業の後継者、各種団体からなっています。また、事業の推進にあたり課題、問題点等の検討、協議につき専門的立場からの指導、助言を得るため、大学助教授、まちづくりの専門家、専門委員として加えている。また、協議会には八名の調査員をおき、活性化に関する調査研究及び情報、交換など目標を達成するための諸活動を行うことになっている。

協議会の会長には瀬戸町長の阿部茂久氏、副会長に商工会長の阿部巖蔭氏をそれぞれ選任した。事業の推進内容は、本町と海と山の自然景観を生かした目的滞在型の観光レクリエーション基地づくりについての観光開発ビジョンの策定、町内資源の具体的な利用方法について、つづいて、加工製品、健康食品、特産品の開発、名物料理を試作し、特産品の商品化をめざす。また、一人ひとりが「ふるさとを再興」



昭和61年6月1日発行
発行所 瀬戸町役場
電話 0894 (代) 52-0111
〒796-05 愛媛県瀬戸町三机
編集 企画課



アジ釣り真っ盛り

主な内容	
瀬戸町のまちづくりスタート	2.3ページ
大江地区行政懇談会開催	4.5ページ
イベントからのまちづくり	6ページ
大江で待望の広場完成	7ページ
しいたけ栽培で1等	8ページ
社協だより	9ページ
掲示板	10.11ページ
人々のうき	12ページ

今、大江・志津沖でアジが釣れている。このアジは体長が30~40cm、重さは500~800g程度。先日、赤崎鼻からアジを釣る船団をのぞいた。このあたりで海の深さは60~70m。潮の流れに逆らって上ったり、下ったり船の動きは忙しい。この日の船の数は130隻。この日に釣り上げられたアジの数はどれくらいになるかな? と思い簡単に計算してみた。一隻に平均3人として全体で890人。1人で平均20匹として7,800匹。1日で約8,000匹程度と思われる。釣りをしている人は漁師から遊漁客までいろいろ。しかも遊漁客は年々増加しているように思える。近くの魚礁設置したところでは、もう少しするとイサギが釣れる。サジ、イサギの釣れる期間は3カ月程度。このほかに種々の魚が長期間にかけて釣れる瀬戸町の顔として売り出してもいいのでは。このアジ釣りは7月上旬ころまで続けられる。

活性化行政をめざす！ 大江地区行政懇談会開催

むらおこしから雇用対策まで幅広く懇談



▲活発な意見がとびかう(大江集会所)

漁港整備について
大江地区行政懇談会が五月二日、大江集会所で開催されたこの懇談会は、住民のニーズをひきだし、活性化行政をめざすものとして五十九年度から計画的に実施しているものです。
懇談会には、大江地区住民三十八名、町側からは町長以下十二名が出席。

大江地区には、農業が主体であるため、農業関係の要望が多く、また、むらおこし対策から雇用対策まで幅広く提案、要望が出され、夜遅くまで熱心な話し合いが行われた。この懇談会での質疑応答の内容を要約します。

漁港整備について
大江地区は、農業が主体であるため、農業関係の要望が多く、また、むらおこし対策から雇用対策まで幅広く提案、要望が出され、夜遅くまで熱心な話し合いが行われた。この懇談会での質疑応答の内容を要約します。

漁業振興について
取る漁業から育てる漁業へと変ってきた今日、今後とも漁産物集荷所の建設をお願いしたい。

農業振興について
町と農協において伊予柑の共同貯蔵施設整備の計画はあります。

農業振興について
これは新農業構造改善事業で計画されています。

農業振興について
今年度旧三机地区が指定を受けることになっており、事業費は全体で八億程度、六十一、六十二年で具体的な計画を立て、六十二年から実施する。

農業振興について
今年度より六十年間にわたり九千万円をかけて魚道設置を計画しており、今年度は二千七百万円を投入します。

農業振興について
本年度より六十年間にわたり九千万円をかけて魚道設置を計画しており、今年度は二千七百万円を投入します。

農業振興について
本年度より六十年間にわたり九千万円をかけて魚道設置を計画しており、今年度は二千七百万円を投入します。

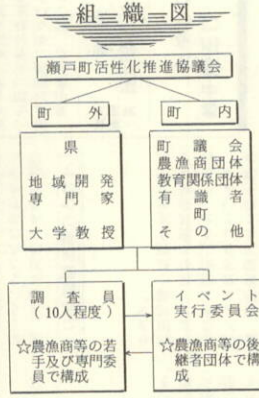
農業振興について
本年度より六十年間にわたり九千万円をかけて魚道設置を計画しており、今年度は二千七百万円を投入します。

農業振興について
本年度より六十年間にわたり九千万円をかけて魚道設置を計画しており、今年度は二千七百万円を投入します。

農業振興について
本年度より六十年間にわたり九千万円をかけて魚道設置を計画しており、今年度は二千七百万円を投入します。

調査員レポート

活性化推進協議会調査員等10名は、町おこし事業のビジョン策定の一環として、大山町、湯布院を視察研修した。大山町においては、NPPC運動を通じた新たな産業おこしや、人材養成、独自の村おこし事業を展開しており、その概要は次のとおりです。



第一次NPPC運動(S86年)
は、行政、農協、農業改良普及所が一体となって村をあげ田(特に米作)から、梅、栗園に転用。
第二次NPPC運動(S89年)
は、人づくりを目的し、人間関係を良くするための、人の出合いの場づくり。
第三次NPPC運動(S45年)
は、三十五部落を八つのグループにまとめ、各団地に地域住民のコミュニティ活動の

に対する関心と意識を高め、主体的な取り組みの気運を醸成し、活力あるまちづくりを推進するため、専門家を招へていてシンポジウムを開催することとしている。

交換が行われ、この中でまちづくりの専門家は、みんななかげ声だけでなく、よい意味での「バカ」になれる人間が何人いるかが村おこしのパロメーターであり、一つの目標に向って町民みんなが真剣に取り組みが重要であると指摘された。

瀬戸町生活改善グループ連絡協議会

会長 河内利子



マーマレードづくりにとりくむ生活改善のみなさん

私達生活改善グループは、今年で六年、やっと小学生になったばかりの歴史の浅いグループではありますが、過疎化の波が押し寄せ、その名の通りささやかではあります。少しでも日々の暮らしに役立つ活動を通して、会員一同がんばっております。

最近では、又全国的に一村一品運動が、又村おこし運動等地域に根ざした活動がさかんになり、国道の開通で前年に南予用水の通水、又ニューメディア構想の推進、半島振興局の地域指定等私達を取り巻く環境は大きく変わっております。瀬戸町にも活性化推進協議会が発足しました。今まで開

施設を計画的に設置している。第一次産業の出荷だけでなく、農協に工場を設け、加工を手がけている。又、よき人材確保のため、海外派遣として、イスラエルキャブ(自らの資産を持たない生活集団)へ8カ月の研修を行っており、

今までに延約60名が参加している。最近では、青年農業者達が中心となり、現代は、余暇の時代であるとして、週休8日(4日働いて8日休め)の運動が展開されている。湯布院町については改善で、

用されることのないワカメの芯を利用した保存食、山ぶきの佃煮等まださぐりではあります。何とかが活性化につながる道を考えております。先日、スミレグループでは瀬戸の花嫁便に入れてもらってマーマレード作り体験しました。

夏柑百五十粒一つ一つ洗い、皮をむき、小さきぎぎしました。果実も一つ一つ手ではいで種子を取り、キヤーにかけました。その量は、ひら釜三杯分にもなりませんでした。一晩は十二時近くまで、次の夜は明け方近くまでがなばっていただきました。三日かかって三百入りの瓶が六本、最後脱気殺菌してやっ

発される事なくねわっていった自然は町の大きな財産であり自然とのふれ合いを大切に、又、山の幸、海の幸を生かした特産品の開発が今一番求められております。この半島にしかない、町花でもあるツワブキのみを漬、夏柑を利用したマーマレード、ほとんど利用

このことは新農業構造改善事業で計画されています。今年度旧三机地区が指定を受けることになっており、事業費は全体で八億程度、六十一、六十二年で具体的な計画を立て、六十二年から実施する。

町と農協において伊予柑の共同貯蔵施設整備の計画はあります。

これは新農業構造改善事業で計画されています。今年度旧三机地区が指定を受けることになっており、事業費は全体で八億程度、六十一、六十二年で具体的な計画を立て、六十二年から実施する。

今年度より六十年間にわたり九千万円をかけて魚道設置を計画しており、今年度は二千七百万円を投入します。

今年度より六十年間にわたり九千万円をかけて魚道設置を計画しており、今年度は二千七百万円を投入します。

今年度より六十年間にわたり九千万円をかけて魚道設置を計画しており、今年度は二千七百万円を投入します。

今年度より六十年間にわたり九千万円をかけて魚道設置を計画しており、今年度は二千七百万円を投入します。

サマーフェスティバル in Seto

8月2日・3日 三机須賀公園 (イベント実行委員会)



▲ 昨年の和豊祭(三机須賀公園)

イベントからまちづくり
みんなのできごと
まじり

イベント実行計画 (案)

実施日	行事名
8月2日(土)	女子大生招待交流事業 各団体出店コーナー 宝さがし カヌー競争大会 相撲大会
8月3日(日)	魚のつかみ取り大会 釣り大会 高茂牛のバーベキュー サザエのど自慢大会 花火大会 ウィンドサーフィン

イベントからまちづくりをめざした瀬戸町のイベントづくりが、今年、イベント実行委員会で作成されている。

イベント実行委員会委員長 木嶋秀幸(は、商工、農、漁業の後継者や青年団等で構成され、瀬戸町に定着したイベントを作り出して行くこと、熱のこもった討議を再三再四夜遅くまで開いている。

現在、全国的にまちの再紀をかけて、町の顔というべきイベントによるまちづくりがさかんに行われている。

当町においても、三机青年団が七月に実施している和豊祭など各種団体が伝統行事の継承、新たなイベントづくりをめざしている企画され

ているが、いずれも高齢化による団員の減少等により、実施が危ぶまれ、衰退している現情である。これらの実情を踏まえ、伝統行事を生かし、各団体の個性を生かし、瀬戸町の顔となるべきイベントの開発が望まれている。

実行委員会が企画しているのは、三机須賀公園を会場として、三机青年団の継承行事である和豊祭、他のイベントを総合して瀬戸町のイベントとして売り出そうとしている。内容は、ほぼ決りつつあるが、詳細については今後、委員会でも充分煮詰め、今月末ごろには内容を決定して、ポスターで町内、外へ周知することとしている。

を要望します。

○ 重量車及び雨による崩壊かたがあるため災害復旧で対応したい。

○ 第二小中学校付近の県道に生コンを捨て、諸車通行に支障があるので早急に取除いてほしい。

○ (調査の結果)ご指摘の生コンと砂が数か所あったので早急に片付けます。

○ 大江地区内線の調査とこの事業を実施するとなればいつごろになりますか。

○ 住宅連たん地域へ車が行われるように町が整備を行っております。六十年代からは土地を提供すれば、町単独で対応する事業を開始しており、昨年は川之浜地区で実施しました。地域環境整備事業(県単)は、単年度千一五百万円のため、できるだけ効果的に進めたい。さっそく調査しますが、限られた財源の中で検討しなければならぬため、はっきりした着工時期については明確に答えられませんが、なるべく早い時期に着工する方向で進めたい。

○ 県道のグレーチング設置か所の路面が下がって支障をきたしているので修繕を県に要望して下さい。

○ 六月中に整備することになっていきます。

○ 原子力発電について

○ ソ連の原発事故が大きな問題となっています。伊方原発の充分な避難道路として県道の改良と安全性を確認するための養魚場の設置を要望します。

○ 世界を巻き込むような大きな問題となり非常に心配されています。事故のおきないよう厳重な処置と慎重な運転をしていただきたい。このことについて県も電力会社へ申し入れています。養魚場設置については、過去に話しがあったようです。再度確認したい。

○ 県道の改良については、毎年二億五千万円程度で果が改良を進めており、今年度においてもこの程度の規模と考えることができます。これも機会あるごとに要望いたしますのでご理解願います。

○ 伊方町においては、多くの人が原発関係の仕事に就いているが、本町においてもこの関係の仕事場を作ることにより、過疎化の防止に役立つと思う。

○ 就職問題は、本町において一番大きな問題であり、マリノベション構想、半島振興法の指定又、国道バイパスの開通、南予用水といっているが、条件が整いつつあるので総合的な見地からこの大きな問題に取り組みたいと考えています。

○ 就職問題は、本町において一番大きな問題であり、マリノベション構想、半島振興法の指定又、国道バイパスの開通、南予用水といっているが、条件が整いつつあるので総合的な見地からこの大きな問題に取り組みたいと考えています。

○ 六十一年度に町づくり推進事業を計画しており、この中で加工特産品を二・三試作中。又、昨年から農協で実施されている金太郎いも加工製品やつわ漬けの改良そして海の幸、山の幸を使った名物料理をどの旅館や民宿でも食べられるようにして、瀬戸町の顔としたい。

○ 瀬戸町の産物を使った一、五次産品の開発研究を各団体

と共に進めていきたいと考えております。

○ 観光開発について

○ 権現山開発について道路改良及び駐車場整備を要望します。

○ 専門機関による観光開発のゾーン設定をしているが、その中に権現山もはいつております。具体的施設配置及び利用計画の研究を実施しております。

○ こみ処理施設について

○ 大江地区のごみ処理施設はどういうごみの処理をするのか。将来、ごみ焼却場の移転地はどうか。

○ 最近、特にビンやカン入りの食品が増加してきたので、不燃物処理場として整備し、プレスした物を処理する計画です。ごみ焼却場は神崎へ移転することになっています。

集会所について

○ 瀬戸の取付け及び舞台幕の交換をお願いします。

○ 瀬戸の取付けは早急に実施する方向で検討します。舞台幕につきましては付属品になりますので区の方でお願いしたい。

**集中豪雨に
気をつけよう**

○ 集中豪雨は、狭い地域に強い雨が短時間に降るので、あっという間に災害が発生することがあります。梅雨末期は、長雨などで地盤がすでにゆるんでいるので、強い雨が降り始めたら、厳重な警戒が必要です。

○ 警報・注意

**雨が強くなったら
要注意**

○ 集中豪雨は、狭い地域に強い雨が短時間に降るので、あっという間に災害が発生することがあります。梅雨末期は、長雨などで地盤がすでにゆるんでいるので、強い雨が降り始めたら、厳重な警戒が必要です。



表彰式(愛媛県民館)



愛媛県民館で行われ、一般の部、箱ものの部、桐木の部あわせて一七八点が出品された。この部で一等を受賞したのは、木村さんただ一人。しかもこのようなところへ出品したのは、はじめてのことだ

愛媛県つばき杯桐木部一等受賞 小島の木村千代一郎さん

愛媛県つばき杯桐木部、一般の部銘柄「天白どんこ」で小島の木村千代一郎さんは知事賞一等を受賞した。表彰式は、五月二十日愛媛県民館で行われ、一般の部、箱ものの部、桐木の部あわせて一七八点が出品された。この部で一等を受賞したのは、木村さんただ一人。しかもこのようなところへ出品したのは、はじめてのことだ

そうです。木村さんのしいた栽培に取り組み姿勢は立派で、しいたけに関する雑誌を読んだり、桐木の環境には細心の注意をはらうなど大愛研究熱心です。木村さんは現在一人暮らしですが、次は品質の良いものを作って大臣賞をねらいたいと意欲満々。しいたけは、小島地区のほとんどの家で栽培している。ここ数年、小島地区では全国大会はかいろいなる大会で受賞される方が相つき、しいたけ栽培における技術が相当向上していることがうかがえる。今後とも瀬戸町の誇れる特産品としてより一層の品質向上を期待したいものです。



ゲートボールを楽しむ老人クラブのみなさん(大江)

このような状況を受けて、地域の健康に即した町民参加による健康づくりの場が強く求められています。現在、社会体育が重要視され、各種のスポーツ大会が企画されています。しかし、出場できる人数、スポーツの内容は限られ、また、交通、スポーツ施設等の中に

大江地区

待望の広場完成！ こどもからおとなまで 生涯にわたる健康づくりの場

本町は急速に過疎化、高齢化現象が進み、先の国勢調査結果、人口の構成は年少人口(15才未満)一五・九%、生産年齢人口(15才以上)六四・五九%、高齢人口(65才以上)二四・四%となっており、高齢人口の割合は、愛媛県下七〇市町村のうちで四位とたいへん上位にランクされています。

おいて、誰もが継続的にスポーツを楽しめることはなかなか大変である。誰もが参加できる身近なスポーツが見直されている。町では、こどもから老人まで参加できる身近なスポーツ広場づくりとして、老人いきが対策事業を行っています。朝夕、仕事の合間、気心の知れた近所の方とゲートボールといったのも、いきなものです。

老人いきが対策事業

この事業は区の要望により実施するもので、用地は区で準備、これに必要な原材は町から支給します。後の管理は老人クラブです。団体ですることになっています。



大江老人会 大野豊作

大江ゲートボール場の開設に際して

今回の町当局並びに議会の格別の御配慮と地主井上礼作氏の御厚意と地区有志の労働奉仕により、県道の上方面、地区の中心地に約百坪の広場が完成致しました。ここはゲートボールの練習だけでなく子供の遊び場所でもあり、又地区の運動広場として用途は大いに拓けてゆくものと思われたい。今や、ゲートボールは全国津々浦々にその愛好者は増え、野球に次ぐ国民的スポーツといわれております。それは、この競技が健康的で興味深く、老人に適したものであると思われたい。大江においても開設された場所では愛好者も増え、練習も容易であり、そのうちに堂々たるチームとして町の試合に出て行く事と確信しております。最後に申し上げます、開設に際して町当局、議会、地主、地元有志の方々に感謝して心より御礼を申し上げます。

原付自転車
ヘルメット着用が義務づけ
7月5日取締り開始!!

いままで「ヘルメットを着用するように努めろ」という努力義務だけでしたが、七月五日よりすべての道路について、その着用が義務づけられました。これに違反すると行政処分点数一点が科せられます。

青少年の健全育成をめざして

(瀬戸町青少年問題協議会)

家庭の日
毎月第三日曜日
青少年を非行から守る日
毎月五日

スローガン

- 育てよう 強く正しい 瀬戸の子に
- 少年に 明るい家庭 よい遊び
- 明るい瀬戸に 愛の一声かけあって

国民年金保険料の免除手続きについて
国民年金に加入している方のなかには現在、家計が苦しくて保険料を納めるのが困難だという方もおられると思います。しかし、保険料を納めずそのままにしておいてはいつか年金を受け取ることができません。そこで国民年金ではこのような方のために保険料免除制度を実施しています。免除を受けられるのは、国民年金に強制加入している方です。サラリーマンの奥さんなど任意(希望)加入の方は受けられません。保険料の納付がとくに困難な方は七月三十一日までに手続きをしますと、今年四月から一年間保険料が免除されます。ただし、保険料免除基準をこえる場合については、免除該当者になりません。免除を受けた期間の年金額は納めた場合の三分の一です。将来、家計が楽になったときは、十年前までさかのぼって納めることができます。免除希望者は、役場年金係又は、地区年金委員まで届出して下さい。

社協だより

京都御所

奉仕に寄せて

是 沢 岩 兼

私達瀬戸町日赤奉仕団は、五月十三日から四泊（船中二泊）五日の日程で京都御所奉仕に参加しました。新緑したる御所内は、平安朝を偲ぶす歴史的な御殿が建ち並び、一瞬時代錯覚におちいりました。私達は宮内庁職員の方の指示に従い、紫宸殿・大宮御所・宮内庁事務所等の庭園の草とり、清掃整理を行いました。みんな瀬戸町の名譽にかけてと大奮闘。作業中雨が降り出したのにもかかわらず続行して係員の方から感心されたり、また大宮御所のお庭で慣れぬ手付きでスコップや、猫車を取扱い、通路の白砂を整地して汗を流した事は忘れ得ぬ思い出になりました。五月十五日のおおい祭りの興奮、三机長養寺の本山妙心寺に詣で、方丈で三五〇寺院の中から長養寺の寺札を見つけたとき

熱戦

老人クラブ親善テニストボール大会

神崎チーム優勝飾る



1球に大歓声
(三机小中グラウンド)

去る六月一日(日)三机小中グラウンドでテニストボール大会が開催されました。大会は十四チーム125名が参加し、昨年比べ参加チーム数も増成、川之浜が各々の一チーム増え、今回新たに倉チームが加わり親善大会として一段と充実した内容の大会を繰り広げました。

- 優勝 神崎チーム
- 2位 塩成Aチーム
- 8位 足成チーム

高温多湿は細菌が増える最適環境

夏の食中毒にご用心



日本の夏は高温多湿。人間にとっては過ごしにくい気象条件でも、微生物や細菌が増えるには最高の条件なのです。なかでも食中毒を引き起こす細菌は、七、八、九月に猛威をふるい、一年間に発生する食中毒の六〜七割がこの時期に集中しています。

食中毒防止の三原則は①清潔 ②じん速③加熱と冷却。毎日の食卓を守るためにも、家庭でできるチェック・ポイントをみてみましょう。

清潔

細菌をつけない

食中毒にならないためには、調理をする前には必ず手を洗ひましょう。見た目はきれいかもしれませんが、細菌のすみか。また化粧した傷口やおてぎのなかには、食中毒の原因となる細菌がいます。指に切り傷やおてぎがあるときは、指サックなどで傷口をふさぐようにしましょう。また食器、まな板、ふきんなどの調理器具は、次に使うときのために熱湯消毒や天日乾燥をして、清潔にしておきましょう。

じん速

調理したものを食べる

夏は暑くて食品が腐りやすくなります。調理の仕方にも、工夫がいる季節です。食品を買ってきたら、常温に長く置かず、手ざわりよく調理しましょう。とくに魚などの生の食品は、できるだけ早く調理することが大切です。また食中毒を引き起こす細菌が増えるには、ある程度の時間がかかります。調理したものは早く食べましょう。食べ残して時間がたったものは、なるべく捨てるようにしてください。このことが食中毒を予防します。

加熱と冷却

冷やして増やさず 熱して殺す

細菌は熱に弱いものです。六五度以上で加熱すると、たいいていの細菌は死んでしまいます。また冷却が細菌を増やしていくくす効果があります。グンと冷凍すれば、細菌はまったく増えません。加熱と冷却をうまく使って、細菌をよせつけないようにしましょう。

給食サービス事業

実施中

社会福祉協議会では昨年にひきつづき在宅老人福祉事業の一環として、給食サービスを実施しています。これは、町内在住の七十五才以上の独居老人並びに老人家庭奉仕員派遣世帯の方々を対象に原則として二月の二十日に原則食を配食しています。給食日は朝早くから、日赤奉仕団婦人ともしりか、ボランティアによる交代で瀬戸町中央公民館において調理していただいた後、ボランティアの方々の手から対象者である、おじいちゃん、おばあちゃんの手

に届けます。ただ一度だけのお弁当でありますが、この日を指折り数えるお年寄りがあると思うと協力者一同の励みにもなります。

昭和六十年度 六十五名
昭和六十一年度 六十六名
対象人員

「請」に対応するため計画的ボランティア活動の派遣体制を整備を図り地域住民のすけあいによる「福祉の町づくり」を目指して福祉人材バンク事業がスタートします。

あなたもボランティア 登録を!!

四月十一日(土)三机老人クラブ松寿会(会長 山本多喜雄)弥生会(会長 古沢タケ七十五名の方々)が参加して、お四園道(四園四十四ヶ所)のつじ、さくらの手入れや、草かりの清掃作業を行いました。当日好天にも恵まれ、作業は順調に進みました。中には鼻歌詠じりや、普話をしながら草かりをしている人も見られ昼前にはすっかりきれいなになり、その後の花見も笑顔の内に終わりました。

あたたかい地域社会をめざして

瀬戸町社会福祉協議会では高齢化社会の進行に伴い老人をはじめとする福祉ニーズ(要

活動内容
介護、看護、日常生活活動、料理、看察、美容、手話、留守番、朗読、踊り、建物補修、話し相手、車運転、人形劇、スゴーツ、学習指導、書道、陶芸、生け花、カラオケ、庭づくり、書く、あんなのサービス、電話、縫いもの

わが家のアイドル

光美 さんの長女
網幸 さん



松本喜美加ちゃん(大久) 昭和60年2月21日生

外に出て何かを見ると「やーやー、やーやー」とそれが得意の喜美加です。あんよが出来るようになり自分の手の届くところまで手を伸ばし悪いことをしてお母さんやお父さんを困らせます。

幸登茂 さんの長男
細川 政 子



細川 にもちゃん(三机) 昭和60年8月23日生

やさしい由美お姉ちゃんと毎日元気に遊んでいます。もうすぐハイハイも出来るようになります。父母より……二人とも「やさしさ」をいつも持つことができる強い子になってほしい。

人々のうき
(5月末現在)

世帯数	1,825戸
人口	3,584人
男	1,648人
女	1,936人
本籍数	4,426戸
本籍人口	14,988人

東長くお寄せに

昭和61年5月分

お誕生おめでとう

おくやみ

まごころ銀行だより

瀬戸町大江の大野豊作さんより、亡母ヌイさまの生前お世話になった、町の福祉団体、老人クラブ大江会、大江婦人会へ指定預託の申し出がありました。

早速それぞれの指定先へ払

愛媛県警察官採用

この試験は、愛媛県、警察庁、神奈川県、京都府、大阪府の警察官になるためのもので、受験にあたってはあなただけの志望する都府県を選ぶことができます。

▲受験資格

昭和三十四年四月二日から昭和四十四年四月一日までに生まれた男子で大学卒

特別募集については昭和三十四年四月二日から昭和三十九年までに生まれた男子で大学卒、昭和六十一年十月一日の採用に充じられる者。

い出いたしました。

大江婦人会 金五万円
老人クラブ大江会 金五万円
福祉団体 金五万円
紙上から厚くお礼申し上げます。

お礼

せと広報送費用にとご寄付をいただきました。紙上から厚くお礼申し上げます。

▲松山市朝生町の富士原律明さん
▲大阪市住吉区兩住吉の水本善吉さん

▲交付開始

七月十六日(水)まで

▲試験地

松山市(松山東警察署)
新居浜市(新居浜警察署)
宇和島市(宇和島警察署)

▲四合せ先

愛媛県人事委員会
電話0899(4)2111
愛媛県警察本部警務課
電話0899(4)0111

▲試験日

近頃の警察署、駐在所
八月三日(日)

編集日記

ただ今、海洋クラブの輪を町内に広げよう準備しています。

これは、BとG財団(会長 柴川良一)がヨット・カヌー・ローボートなど海洋性スポーツを通じて、心と身体を鍛えながら精神思想の普及を図ることを目的としています。

これに伴うヨットやカヌーなどの器材は無償貸与、あとは、全く自主的に管理、運営することになっている。

現在の子どもは広瀬のスゴ IPPのみで大海を利用しての

スゴ IPPは知りません。

しいて言えば夏季の砂浜での海水浴ぐらいです。すばらしい海を目の前にして海がすばらしい、暑ささえ忘れかけようとしています。この子どもたちにヨット、カヌーなどのスゴ IPPを通じて真の海を知ってもらうため、また野外活動を通じて密着において必要な健康、体力、精神力を養いたくましい瀬戸っ子を育てたいものです。

クラブに使用する海は、三坑海須賀公園の前。先日、貸与されたヨット、カヌー、ボートに乗ってみた。カヌーは初めて乗るので不安であったが、乗ってみると安定感があり、すがすがしい気分になる。

クラブの指導には育成士が必要で、近く大分県海防町へ研修に行く。その後近日中に育成士による海洋クラブ講習会を予定しています。小学生のみならず一度大海で羽をのばしてみませんか。



ヨットの練習 (三机湾)